

おやこ通信

第26号



ノロウイルスが流行して以来、マスコミの影響で「ノロ＝怖い胃腸炎」というイメージがついているようですが、子どもに多い**ロタウイルス胃腸炎**も重症化しやすく、注意が必要な病気です。今回のテーマは**ロタウイルス胃腸炎とそのワクチン**についてです。

<ロタウイルス胃腸炎ってなに？>

ノロの流行が11月～3月頃に、それを引き継ぐかのように1月～4月頃にロタが多くみられます。ともに嘔吐、下痢、発熱が主な症状で、ノロの患者さんの方が吐き気を訴えることが多く、ロタの患者さんでは白っぽい色の下痢が見られることが多くあります。

感染してから症状が出るまでの潜伏期間は平均1～2日で、ほとんどの子どもは1～2日で治っていきますが、その後も便の中にウイルスが出ている状態が1週間程度続くことがあるので、注意が必要です。死亡例はほとんどありませんが、重症化して入院する児が非常に多い病気です。中には脳症やけいれんを起こす子もいます。

<ロタを防ぐには>

ロタは感染力が強く、完全に防ぐことはできません。それでもなるべく広げないために排泄物の片付けを徹底したり、手洗いを真剣におこなう必要があります（おやこ通信8・15号をご参照ください）。

ロタウイルスにはワクチンがあり、生後6～24週の赤ちゃんは接種を受けることができます。

<ロタウイルスワクチンってなに？>

ロタウイルスワクチン（任意接種、生ワクチン）は飲んで予防するワクチンです。生後6週から接種ができ、4週以上間隔をあけて生後24週までに2回接種します。24週以降は接種を受けることはできません。タイミングをはずし、期間中に2回目が接種できなかった場合、1回でも全く接種しないよりもかなり効果があります。しかし、できれば2回接種ができるようにかかりつけ医と相談し、スケジュールを調整しましょう。0歳児はほかにも接種が必要なワクチンが多数ありますので、同時接種で受けることが重要です。具体的には、生後2か月になったらヒブ、小児用肺炎球菌、3種混合などと同時接種で受けることをおすすめします。

<同時接種って大丈夫？>

「同時接種後だと副作用が強くなるのでは・・・」と不安に思っている方も多いと思います。しかし同時接種が安全であることは、世界の何億以上の子もたちが受けてきていることから明らかですし、個別接種と比較しても安全性は変わらないことは日本でも確認されています。ワクチンのある感染症から子どもを確実に守るために同時接種は欠かすことのできないものです。

<費用は？>

施設によって違いますが、1回：13,000円前後です。